

平成 26 年 3 月の解説（府県天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、低気圧が数日の周期で日本付近を通過し、通過後は冬型の気圧配置となりました。特に旬の後半は冬型の気圧配置が強まり、日本付近に強い寒気が流れ込んだため、東・西日本日本海側の山沿いや北日本では大雪となったところがありました。旬降水量は、北日本、東日本太平洋側で多くなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が日本付近を交互に通る天気は短い周期で変化しました。北日本から西日本にかけては降水量が多く、大雨となったところや、北日本太平洋側を中心に大雪となったところがありました。特に、東日本日本海側では降水量の平年比が 236% となり、1961 年の統計開始以降 3 月中旬としては最も多くなりました。また、13 日には、屋久島（鹿児島県）で日降水量が 334.5mm となり 3 月としては歴代全国 1 位を更新しました。低気圧の通過後は、北からの寒気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけては気温の変化が大きくなりました。

下旬は、旬のはじめに冬型の気圧配置が強まり、全国的に強い寒気の影響を受け、北日本太平洋側では暴風雪となったところもありました。その後は、本州付近を高気圧と低気圧が交互に通る、北日本から西日本にかけての天気は数日の周期で変わりました。南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけての気温は平年を大幅に上回りました。特に、東日本では気温の平年差が +2.5 となり、1961 年の統計開始以降 3 月下旬としては最も高くなりました。また、低気圧の通過時に大雨となったところもあり、東・西日本日本海側の降水量はかなり多くなりました。特に、東日本日本海側では降水量の平年比が 189% となり、1961 年の統計開始以降 3 月下旬としては最も多くなりました。

月降水量は、北日本から西日本にかけて多く、特に北日本太平洋側、東日本日本海側でかなり多くなり、7 地点で 3 月の月降水量の多い方からの 1 位を更新しました。一方で、北海道の 1 地点で 3 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。また、降雪の深さ月合計は、北日本太平洋側、西日本日本海側で多くなり、4 地点で 3 月の降雪の深さ月合計値の多い方からの 1 位を更新しました。月最深積雪は、北日本で平年を上回ったところが多く、1 地点で 3 月の月最深積雪の多い方からの 1 位を更新しました。

【3 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 85% で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 84% でした。各地方の適中率では、明日予報は、例年値に比べ東北地方と北陸地方で共に 6 ポイント高くなりました。明後日予報は、例年値に比べすべての地方で高くなり、関東甲信地方で 8 ポイント、北陸地方で 13 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.4 小さい 1.4 でした。各地方の予報誤差では、すべての地方で例年値より小さくなり、4 地方で 0.5 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.4 でした。各地方の予報誤差では、例年値と同じか小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の天気予報の利用にあたって】

5 月の天気の特徴の一つは、東西に広がった帯状の高気圧に覆われて晴れる日が続くことですが、ときには低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることや、本州の南岸に前線が停滞して曇りや雨の日が続くこともあります。

また、晴れていても、大気の状態が不安定となり、雷や突風、局地的な大雨となることもあります。屋外での活動を計画する場合は、天気予報とともに最新の気象情報や注意報、警報の発表状況にも留意し、天気の急変などに備えていただくことが大切です。